

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	神戸市立青陽須磨支援学校 職・氏名 教諭 岸田 博子	研究チーム名 (青陽須磨支援職員研修)
-----------------	-------------------------------	--------------------------

研究テーマ分類番号 (9)

(1) 研究テーマ
人による支援・ものによる支援を工夫して授業改善を進める
(2) 研究経過及び具体的な取組
<p>1. 全体研修</p> <p>4月 6日 研修のテーマと進め方について共通理解</p> <p>7月 2 2日 「授業づくりの視点と方法について」 講 師：兵庫教育大学大学院准教授 内 容：・学習集団と個別の支援 ・学習集団における個別の手立て ・人による支援とものによる支援 ・集団の中で個別のねらいを実現するために ・個に応じた教材準備(例) 興味関心・視覚支援 ・各学部の取組における観点について (例) 療育とは？・スモールステップ・自立活動・心理面の配慮・反省を活かす指導とは？</p> <p>2. 学部研修の実施について</p> <p>4月 2 8日 実態把握と学部研修テーマの検討 (1)</p> <p>5月 1 2日 実態把握と学部研修テーマの検討 (2)</p> <p>6月 2 9日 各学部の課題 (サブテーマ) について検討</p> <p>7月 2 2日 事例研修 (小学部) 講 師：兵庫教育大学大学院准教授 内 容：「ことば・かず・あそび」の取組 ・発達段階を踏まえた指導について ・有効な資料・教材の活用について ・工夫した支援の在り方について</p> <p>9月 1 5日 授業研究 1 (例) 小学部 テーマ：「発達段階を踏まえ、学習の基礎となる力を育てる授業をつくる」 内容：「ことば・かず・あそび」の授業を考える。</p> <p>9月 2 2日 授業研究 2 (例) 中学部 テーマ：「実態把握から適切な学習課題や支援の方法を設定し、<u>生活の基礎となる力</u>を育てる授業をつくる」 内 容：○個別の指導計画 ・重点短期目標-前期の評価の検討と (重点短期目標-後期) のねらい・手立ての検討 ・基礎学習、自立活動日常生活 において 「実態把握と 教材教具研究」を行う。 ○まとめ・考察・今後の課題について</p>

9月28日 授業研究3 (例) 高等部 職業自立

講師：兵庫教育大学大学院准教授

テーマ：「ルーチンワークをする力を身につける授業の工夫」

内容：・3年生が1年時より行ってきたルーチンワークを引継ぎ、1、2年生合同のルーチンワークを通じて、働くことの意欲・態度に加えて、コミュニケーション力、責任感、協調性等を身につけること、全体としての指導と個別の指導を行っていくことについて協議した。

10月4日 授業研究4 (例) 高等部 職業基礎

講師：兵庫教育大学大学院准教授

テーマ：「社会人としてのマナーや力を身につける授業を工夫する」

内容：各学年や職業の授業を通して、テーマに沿った取組について現状報告を行い、共通理解を図った。

11月2日 授業研究5 (例) 高等部 生活基礎

講師：兵庫教育大学大学院准教授

テーマ：「作業学習における集団としての課題と個別の課題を押さえた授業づくり」

11月10日 授業研究6 (各学部)

11月22日 授業研究7 (例) 高等部 生活自立

講師：兵庫教育大学大学院准教授

テーマ：「生徒のニーズに応じて場面を工夫し、共感的に関わる授業をつくろう」

内容：各学年の取組の経過報告

成果と課題：

- ・「個別の指導計画」をどう活かしていくのかが大切であることを学ぶことができた。
- ・自立活動をベースに個人の問題を明確にして、一貫した指導をすると生徒個人だけでなく集団が変化することを学ぶことができた。
- ・褒めることの機能について次のことを確認することができ、今後でも取り組んでいかなければならない。
 - (1) 本人がやってできたこと認めること。
 - (2) 褒められて嬉しいという感覚を育てること。
 - (3) 生徒がどの段階にあるのかを見極めて、それぞれに応じた機能を選んで対応すること。